

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で話し合い、理念を決める。「利用者の人格を尊重し、立場に立ったサービスの提供に努める。」	○ 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスにしたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共用し、日々実践し取り組んでいる。	○ 個々の人格を尊重したサービスを続けていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	職員の態度や日々の介護に対する姿勢などから、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	○ 日頃から、地域の人々とのかかわりをもつように努力している。
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	GHそよかぜを理解していただけるように、町内会の集会や散歩、夏祭りなどで、積極的に挨拶や会話などしている。時々、デイサービスの利用者が寄ってくれたり、気軽に声をかけてくれたりする。花の苗を持ってきてくれる方もいる。	○ 気軽に立ち寄ってもらえるようにしたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の集会にGHの職員として出席したり、小学校の運動会に参加して地域の人と交流することに努めている。	○ 町内会の集会には参加している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会の高齢者で1階デイサービスを利用している方はいるが、GHとして取り組めていない。日常生活の行事や業務をこなすことで、今、手一杯の状態である。	○	町内会の高齢者に対して、役に立つことがあれば、協力していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義を理解し、改善に取り組んでいる。	○	自己評価や外部評価で出来ていないところは、改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、施設や利用者について理解や助言をいただき、サービスの向上に努めている。	○	2ヶ月に1度実施していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月の初めに利用者数の報告について介護保険課を訪問し、担当者と近況を話したり、月に2階、鳴門市介護相談員さんを受け入れ、利用者の相談相手になっていただき、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は成年後見制度について学んでいるが、現在、利用している人はいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持ち、虐待について理解を深め、防止策についても話し合い、見過ごされることが無いように注意を払っている。	○	職員同士で注意していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族の方との話し合いを持ち、不満や疑問がないように努めている。</p>	○	家族の理解を求めている。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者より、家族や鳴門市介護相談員さんや職員に意見、不満、苦情などの発言があった場合は、真摯に受け止め、改善や運営などに反映させている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の支払いや面会時に、健康状態や小遣いを預かっている家庭には、金銭管理の報告などを行っている。近況についても話すようにしている。訪問時には、必ず言葉を交わすようにしている。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時などで話をする機会があり、意見、苦情などがあれば職員が話し合いをし、運営に反映させるようにしている。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>いつでも意見や提案などを聞く姿勢があり、検討をし、出来ることに関しては反映させるようにしている。</p>	○	職員の声を反映するようにしたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の協力により、急な行事や台風時など柔軟に勤務の調整が出来る。</p>	○	行事を計画的に実行できるようにしたい。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動が7年間で5人の為、あまり、ダメージは考えられない。退職時などは、長期の休みと思っているようである。ダメージを防ぐ配慮はしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー研修会に参加したり、希望により、夜間法人が主催しているヘルパー1級、2級の資格を取りに行ったりしている。	○ GH協会の研修に出来るだけ、参加者を出していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リーダー研修や問題行動研修、総会などの勉強会に出席し、他の施設と交流を深め、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○ 今後いろいろな研修会に参加し、職員のスキル向上をはかりたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に一回、全体会議をしたり、管理者や職員と話し合いをする機会を設けたりして、意見を聞きストレスの軽減に努めている。来所して職員と話し合う機会をもっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の状態をよく把握しており、各自が働きやすいように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	各利用者の話の内容から、何を望んでいるかを汲み取る努力はしている。情報の共有に努めている。	○ 利用者を知る努力を続けていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	要望に答え家庭訪問をしたり、電話での応答や、施設に来てもらって不安の解消に努めたり、相談相手になったりしている。	○ 家族の不安を解消する努力を続けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が今なにを一番に必要とされているかを話し合ったりしている。	○	徘徊を好まれる方には、昼間とは別に、夕方散歩コースを一周してくるとかしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学をしてもらったり、一階デイサービスを利用してもらったりすることもある。	○	本人が納得して、サービスの利用が出来るようにしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、介護される側に立つのではなく、一つ屋根の下で生活を共にする9人対9人、計18人が一緒に生活をしながら、職員が教えてもらったり、悩み相談に乗ってもらったりしてお互いに支えあう関係になっている。共に支えあっているように思う。いろいろ教えてもらったり、相談にのってもらい、助言をしてもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、家族と話し合う機会をもつようにし、経過説明をしたり、現状についての相談や悩みを聞いてあげたり、どういう形で支えることが、家族にとっても望ましいことなのかを聞いていたりしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と外出する機会をもうけたり、居室で話しあう機会を設けたりしている。	○	頻繁に家族に来てもらえるようにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若いときから利用していた店などに買い物に行く機会を設けたりしている。なじみの病院や店等に通っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に共同作業やゲーム等をして、利用者が仲間外れにならないようにしている。	○	弱者に対して思いやりの心をもって接することが出来るようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に変わられても入院されたとの情報があると、お見舞いにいったり、町で出会ったりしたときには、近況を尋ねたりしている。相談などがあるときには、相談にのることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方や希望等を本人や家族に聞いたり、興味をもたれたことを実施するようにしている。出来ない方に関しては、参加したり、別行動(体調を考慮)するようにしている。	○	興味や趣味など持たれている方には、活かせるようにしている。(歌、貼り絵など)各自が何か出来るようなものを見つけたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、入所時や面会時などを利用して、生活歴や生活環境などについて情報をしらせてもらい、本人を知るように努めている。	○	いろいろな人に知らせてもらい生活歴や生活環境の把握に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人ファイルや申し送りノートや連絡ノート、毎日の申し送り時間等で情報を収集し、現状を把握するようにしている。		
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の方との話し合いを持っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画者が中心になって、毎日、介護職員が各利用者ごとにケアチェック記入したのを、3ヶ月ごとに見直しを行なっている。変化が生じた時々に見直しをしている。	○	本人、家族、必要な関係者と話し合いをもちたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づきなど個別ファイルや申し送り、連絡ノートに記入し、介護計画の見直しや情報の共有に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況や要望などに応じて、出来るだけ柔軟な姿勢で支援や援助をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校の運動会に招待されたりしている。清拭用の布をもってきてくれたり、阿波踊り見学に付き添いをしてくれるボランティアの協力がある。	○	いろいろな機関に協力をもとめていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	時々、希望に応じて1階デイサービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向を聞き、出来ることはおこなっている。	○	出来ていないため、今後検討していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科では、9人の方に3人の主治医がいて、一人の医師には、週二回の往診をしてもらったり、受診、通院時に対応してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	一人ひとりに主治医がいて、往診や通院をして診察や助言をおこなってもらっている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	1階デイサービスの看護師に朝のバイタルチェックを受け、異変があれば、相談にのってもらい、指示をうけている。通院をしなくても良いような擦り傷の治療や処置の支援をしてもっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は職員が毎日交代で見舞いに行き、容態のチェックや病院関係者と話し、情報交換に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の方と話し合いを持ち、方針を決めている。状態や症状の変化等の医師の説明については、家庭訪問や電話等で家族に説明をしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	病院スタッフや医師と連絡を密にとり、支援に取り組んでいる。変化にそなえては取り決めが出来ている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	次の施設を訪問して、関係スタッフと情報交換や話し合いを行い、家族と連絡を密にとり、ダメージを防ぐことに努めている。	○	家庭と施設の違いに戸惑われることの無いように努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重した対応をするようにし、個人情報保護法の理解に努めている。	○ 高齢者として敬い、充分配慮していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の気持ちをよく聞き、判断したり、納得したりしながら暮らせるように支援している。	○ 本人の気持ちを大切にしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビや新聞などから、見に行きたいと希望される場所に出かける機会を作り、支援している。	○ 希望にそった支援をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	なじみの美容院や近所の美容院を利用したり、出張美容を利用する方もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳等に参加し、利用者と職員が同じテーブルを囲んで食事をしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	2名の利用者が自分で管理している。(ただし、多く食べ過ぎないように職員が管理することもある。) 好まれる品物を選び、気をつけておやつをだしている。	○ もっと手作りおやつを作りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりのパターンに合わせて定期的にトイレ誘導し、記録をつけている。	○	トイレ誘導に時間がかかっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後入浴を実施する。最初に入浴を希望する方がいてトラブルになったので、9名を3グループに分け、三日に1回は一番が当たるようにし、入浴前にバイタルチェックをし、体調に合わせて入浴している。午前中や夜間は好まれないため、現在は実施していない。バイタルチェックし熱の無い人は、全員入浴している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午後、定期的に体調に応じて静養する利用者がいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりを職員が理解し、個々に応じた役割や楽しみごとの支援をしている。	○	やる気、意欲のまったくない利用者への支援の方法を検討したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて、お金を所持していたり、購入時にお金を持って支払いをしたりしている。出来ない方は、職員が代わって支払いをしている。	○	買い物に出かける回数を増やしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨天以外は、建物の周辺を、状態に応じて(一周、半周など)散歩したり、職員の用事(買い物、市役所や薬を取りに行く)に付き添い、ドライブをすることもある。	○	利用者の希望で参加。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	テレビや新聞などから、見に行きたいと希望される場所に出かける機会を作り、支援している。	○	希望にそうようにはしているが、全員で行くことが難しい。(付き添いや配車の問題)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をして話をする機会を設けている。家族からの電話は出来るだけ取り次ぐようにしている。年に1回であるが、年賀状は出すようにしている。	○	回数を多くしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会、訪問出来るようにし、一階デイの利用者や家族等、面会時は自室等でゆっくりと談話している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員が理解しており、やむをえず身体拘束をする場合は、家族、本人に話し、理解を求めるようにしている。現在はしていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階にあり、入り口がすぐに階段の為、安全予防(転落の防止)として、施錠している。他の利用者が自室と間違っ入り込み、品物を持ち出すことが多いのでやむなく鍵をかけざるを得ないこともある。入られるのが嫌な利用者は、鍵をかけてホールに出て来ている。	○	自室と他室の区別のつかない利用者があるため、希望により、鍵をかけている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	巡回や見回りなどを通して、所在の把握に努め、安全に配慮している。巡回、見回りをしている。	○	居室に入ると眼が行き届かない事もあり、十分に配慮していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりのその時に応じた対応をして、気をつけるようにし、利用者から教えてもらうこともある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じた事故防止に、真剣に取り組んでいる。	○	十分に気をつけないといけない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時は看護師の指示をあおぎ、救急病院や主治医の病院に搬送している。応急手当や初期対応の訓練が実施出来ていない。	○	救急救護法の講習を受ける機会つくっていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回消防署員にきてもらい、火災や地震、夜間想定避難訓練をしている。また、職員のみでも訓練を実施している。	○	地域の人にも協力を求める体制作りをしていききたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時や面会時、電話、家庭訪問等をし、利用者の状態に応じて、リスクについて、家族に説明する機会を設け、理解してもらっている。	○	状態がよくない利用者については家族と十分に話し合いをしているが、今後、お元気な方についても話し合う機会を作っていききたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り表や連絡ノートに記入し、情報の共有に努めている。朝、入浴時にバイタルチェックし、その他、異変時に看護師に相談、病院に連絡、通院し、対応している。	○	家族になって対応していききたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的などについて理解しており、バイタル表に薬名の記入や、連絡ノートに薬の変更を記入したり、往診ノートや申し送りに体調の変化を記入している。服薬は必ず確認をしている。	○	これからも十分きをつけていききたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	原因や影響を理解し、散歩や体操などで身体を動かし、食事の工夫や水分の補給、朝食時の牛乳摂取等に気を配っている。	○	一人ひとりの便秘情報をノートにつけて対応しているが、難しい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	年1回、歯科医師の検診を受け、アドバイスをしてもらい、毎食後、口腔洗浄に努めている。声かけしても拒否する利用者には磨いてあげることを心がけている。ていねいに歯磨きをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	バイタル表に記入して、利用者一人ひとりの摂取量や水分量が確保出来る様にしている。	○	充分気をつけているが、聞いてもらえないときがある。
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	予防や対応の取り決めがあり、常に利用者、職員共に手洗いの励行に心がけている。うがい、手洗いは利用者、職員共に充分きをつけている。		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	賞味、消費期限をチェックし、常に新鮮な材料を選び、調理している。食器乾燥機を使用したり、調理用具をハイターにつけたりしている。常に衛生面には特に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	門扉を設置し、自由に出入りできるようにしている。常に花がいけられており、利用者さんが朝、起きると水を取り替えている。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	周りが海に囲まれ、明るく、光がよく入り、その時々により、カーテンなどを使用したりして工夫している。	○	快適に過ごせるように気をつけていきたい。
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ホール、廊下などに応接セットや畳ベッドなどを置き、個々に過ごせるような場所を提供し、自分の好きな場所で思い思いに過ごしている。常に誰かが利用し、今はテーブルの下に鈴虫を飼い、利用者のもっとも好む場所である。観葉植物も置いてある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に家族に依頼したり、本人の好みの品物を置いたりして居心地よく、過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	出来るだけ窓を開け、空気の入替えや異臭の除去に努めている。夜、早めに令房、暖房をいれ温度調節をし、心地よく眠れるようにしている。	○	臭いを除去していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口にてすりをつけたり、畳と入り口との段差にスロープをつける等、安全な環境づくりを実施している。	○	全室が畳部屋なので、工夫をしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見守りしながら、自分でできるよう身の周りのことをしてもらっている。貼り絵が出来る方には貼り絵を。縫い物が出来る方には、オシボリを縫ってもらったりしている。	○	タオルたたみやオシボリを縫ってもらったりしているが、一人ひとりの持てる力を活かしたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りや2階ベランダでは、草花が植えられ、家庭菜園では野菜を植えている。一緒に収穫したり、苗を植えたりする。水やりをしたり、草むしりをしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設の東と南側が海に面し、鳴門のうちの海や島田島が目前にあり、風向明媚である。利用者の方は、朝、太陽の光に起こされ、日常生活の中で自然と共存している毎日を過ごされている。建物周辺の散歩を日課とし、テレビや新聞を参考に、希望を取り入れ外出やドライブに出かけている。職員の平均年齢は他の施設と比べて高いように思うが、利用者と職員が和気藹々と家族のようなお付き合いをさせていただいています。